



農薬の使用基準を遵守し、他作物への飛散防止に注意して使用しましょう。

適期収穫を行い、収穫後は年内に稲わらのすき込みを実施しましょう。

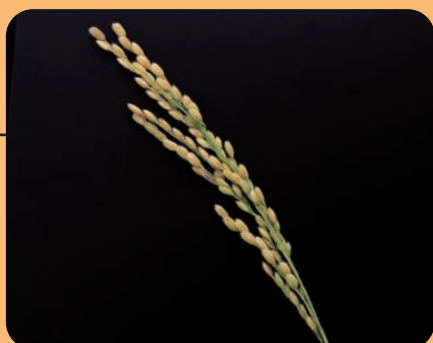
品種	月旬	4		5		6		7			8			
		中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
早期 夢つくし	生育	田 植	活着期		有効分げつ期		無効分げつ期		幼穂形成期		出穂	登熟期		成熟期
	水管理	浅水管理		間 断 灌 水		中干し		間 断 灌 水		落水				
	主な作業	ガス抜き		溝切り		中干し		穂肥（出穂前15～17日）		紋枯病補正防除（出穂期） カメムシ・ウンカ類 いもち病紋枯病防除		落水時期（出穂後28日頃） ※落水後乾燥する時は走り水をする		

J A 米基準

- 農産物検査の受検
- 栽培履歴の記帳と提出
- ふるい目 1.85mm
- 種子更新率 100%
- 仕上げ水分 14.5%

収穫適期
(黄褐色粉70～80%)

- ・黄褐色粉が70%程度になれば収穫適期となり、遅くとも80%程度までには収穫する。
- ・粉の水分含量は28～24%程度である。



適期

品種	月旬	5		6		7		8		9		10			
		中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
夢つくし	生育			田植 / 活着期		分げつ期		幼穂形成期		出穂		登熟期		成熟期	
	水管理			浅水管理		間断灌水		中干し		間断灌水		落水			
	主な作業			箱施薬剤 50 g / 箱		ガス抜き		溝切り 中干し		いもち病粒剤防除（出穂前30～5日） ・穂肥（出穂前18日頃） ・紋枯病補正防除（出穂前14～10日）		カメムシ・ウンカ類 いもち病粒剤防除		落水時期（出穂後30日頃） ※落水後乾燥する時は走り水をする	
元気つくし	生育			田植 / 活着期		分げつ期		幼穂形成期		出穂		登熟期		成熟期	
	水管理			浅水管理		間断灌水		中干し		間断灌水		落水			
	主な作業	※移植時期 ・6月10日以降 ※いもち病に弱い ため防除の徹底		箱施薬剤 50 g / 箱		ガス抜き		溝切り 中干し		いもち病粒剤防除（出穂前30～5日） ・穂肥一回（出穂前18日頃） ・紋枯病補正防除（出穂前14～10日） 稲の生育状況を見て施肥判断		カメムシ・ウンカ類 いもち病粒剤防除		落水時期（出穂後32日頃） ※落水後乾燥する時は走り水をする	
ヒノヒカリ	生育			田植 / 活着期		分げつ期		幼穂形成期		出穂		登熟期		成熟期	
	水管理			浅水管理		間断灌水		中干し		間断灌水		落水			
	主な作業			箱施薬剤 50 g / 箱		ガス抜き		溝切り 中干し		いもち病粒剤防除（出穂前30～5日） ・穂肥（出穂前18日頃） ・紋枯病補正防除（出穂前14～10日）		カメムシ・ウンカ類 いもち病粒剤防除		落水時期（出穂後35日頃） ※落水後乾燥する時は走り水をする	

★高温対策★

○適期移植（平坦部での早植えは品質が低下）
夢つくし6月上旬、元気つくし6月中旬、ヒノヒカリ6月下旬が適期。

○水管理の徹底
出穂期前後は水を切らず、根の活性を保つ。
登熟期間中は、水のかけ流しなどにより地温・気温の上昇を抑制。

○適期収穫
刈り遅れは品質が低下（胴割れ、茶米等が発生）

※間断灌水…田に水を入れ、乾いてはまた入れるを繰り返す作業
※中干し……田の水を抜いて、土に軽くひび割れが入るまで乾かす作業

土づくり

1. 堆肥の施用による土づくりを行いましょう。
堆肥 2t/10a。
2. ケイ酸質土壌改良資材を施用しましょう。

	資 材 名	施用量(10a当たり)
一 般 型	ミネラルGまたはケイカル	160kg
省 力 型	シリカサポート1号	40kg
	ケイ酸加里	40kg

※ケイ酸質資材を施用すると稲体が硬くなり、病害虫・倒伏に強くなります。
また、登熟が良くなり、食味が向上します。

育苗期の消毒・防除(苗立ち枯れ対策)

農 薬 名	適用病害	使用量	使用時期
ナエファイン粉剤	苗立枯病 ムレ苗	育苗箱 1箱あたり6～8gを床土に混合	播種前
ナエファインフロアブル	苗立枯病 ムレ苗	1000倍希釈液を育苗箱1箱あたり500mlを播種時に灌注	播種時

施肥基準

品 種	地帯区分	基 肥			穂 肥	
		肥料名	全層施肥	側条施肥 (機械施肥専用)	1回目	2回目
夢 つ く し	平 坦 地	ベスト444 (14-14-14)	35kg	30kg	NK2号 15kg	
	中山間地		30kg	25kg		
元 気 つ く し	平 坦 地	ベスト444 (14-14-14)	35kg	30kg	NK2号 15kg 又は	※注 NK2号 10kg
	地力低田		40kg	35kg	ワンシヨット追肥エムコート206 15kg	
ヒ ノ ヒ カ リ	平 坦 地	ベスト444 (14-14-14)	35kg	30kg	NK2号 15kg	
	地力低田		40kg	35kg		

1. 大豆後で麦を作付していない場合は、基肥を通常の半分とする。
2. レンゲをすき込んだ場合は、原則基肥は施肥しない(レンゲが田面の8割以上生えている場合)。また、田植後ガスが発生するので、ガス抜きを十分行うよう間断灌水を励行する。
3. (※注) 元気づきの穂肥2回目については、稲の生育状況を見て施肥判断をする。ただし、いもち病に弱いため農業防除を徹底すること。

基肥一発肥料

品 種	全層施肥	側条施肥	備 考
夢 つ く し	Jコート2000 40kg	Jコート2000 35kg	・気象変動や生育に応じた対応ができないため、倒伏や収量低下を招くことがある。
	トリプルエムコート2700 30kg	トリプルエムコート2700 25kg	
元気づき・ヒノヒカリ	Jコート2000(中稲) 40kg	Jコート2000(中稲) 35kg	
	トリプルエムコート2700(中生) 30kg	トリプルエムコート2700(中生) 25kg	

※基肥一発肥料を使用する場合は、早く施肥して乾田状態で置いておくと、速効性肥料分の肥効が低下し、緩効性肥料の窒素溶出が早くなるため、できるだけ田植え近く(1週間以内)に施用しましょう。

種子消毒

種もみ10kgに対し薬液20ℓを準備する。

薬液の構成	使用量	処理方法
水	20 ℓ	①消毒時間は24時間。種初は網袋に詰めすぎないように半分程度とし、途中薬液を2～3回かき混ぜる(薬を内部まで浸透させるため)。 ②消毒後は水洗いせず、そのまま浸種する。 ※ベンレート水和剤を混合する場合は、浸種する前に日陰で半日以上干す。
テクリードCFフロアブル	100ml	
スミチオン乳剤	20ml	
※ベンレート水和剤	20g	

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

農薬名	使用量	備考
スクミンバイト3	2～8kg/10a	発生時に使用
スクミン	1～4kg/10a	収穫60日前まで

除 草 剤

(10a当たり)				
	除草剤名	使用量	使用時期	留 意 事 項
粒 剤	ラ オ ウ 1 キ ロ 粒 剤	1kg	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで (田植同時施用可能)	田面が露出しないよう 湛水状態(5cm程度)を保つ。 フロアブル剤、ジャンボ剤は、漏水田では効果が劣る。 ジャンボ剤は、藻やウキ草類が発生している水田では使用しない。 除草剤散布後7日間は、落水やかけ流しはしない。
	ジェイソウル1キロ粒剤		移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで (田植同時施用可能)	
	※ボデーガードプロ1キロ粒剤		移植直後～ノビエ3.5葉期 ただし、移植後30日まで (田植同時施用可能)	
	ディオーレ1キロ粒剤		移植直後～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで (田植同時施用可能)	
バ ッ ク 剤	ラ オ ウ ジ ャ ン ボ	10バック(250g)	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	早期水稲(4月下旬植え)の場合は、雑草発生が遅いため、除草剤の散布を5日程度遅らせてもよい。
	ジェイソウルジャンボ	10バック(450g)	移植後1日～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	
	※ボデーガードプロジャンボ	10バック(300g)	移植後5日～ノビエ3.5葉期 ただし、移植後30日まで	
	ディオーレジャンボ	10バック(400g)	移植後1日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	
液 剤	※ボデーガードプロ フロアブル	500ml	移植後5日～ノビエ3.5葉期 ただし、移植後30日まで	※おおよその目安 ノビエ2.5葉期=移植後8日程度 ノビエ3葉期=移植後10日程度 ノビエ3.5葉期=移植後12日程度 ※ほ場条件等により差があります。

※ボデーガードプロについては、後作物でなく・たまねぎ・さやえんどうを栽培すると薬害が生じることがあります。

(中期除草剤) ホタルイ、広葉雑草、ノビエ等が残った場合 (10a当たり)

対象雑草	除 草 剤 名	使用量	使用時期	留 意 事 項
一年生雑草及びホタルイ、ウリカワ、マツバ、ミスガヤリ、クログワイほか	レプラスジャンボ	10バック(400g)	移植後14日～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水処理で、散布後少なくとも4日間はそのままの状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流ししない。
広葉雑草・ホタルイ	バサグラン(Na)粒剤	3～4kg	移植後15日～ 収穫45日前まで (落水処理)	落水処理(土壌が十分湿った状態)で、散布後少なくとも3日間はそのままの状態を保つ。また、降雨が予想される場合は散布しない。 ノビエには効果がない。
	注) バサグラン(Na)液剤	500～700ml (希釈水量 70～100ℓ)	移植後15日～ 収穫45日前まで (落水処理)	
ノビエ キシュウズメノヒエ アゼガヤ	クリンチャー1キロ粒剤	1 kg	移植後7日～ノビエ4葉期 ただし、収穫30日前まで (湛水処理)	湛水処理で、散布後少なくとも4日間はそのままの状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流ししない。
	クリンチャーEW	100ml (希釈水量 25～100ℓ)	移植後20日～ノビエ6葉期 ただし、収穫30日前まで (落水処理)	展着剤を加用する。 落水処理で、雑草の茎葉によく付着するように散布する。
広葉雑草・ホタルイ・ノビエ	注) クリンチャーバSME液剤	1,000ml (希釈水量 70～100ℓ)	移植後15日～ノビエ5葉期 ただし、収穫50日前まで (落水処理)	落水処理で、散布後少なくとも3日間はそのままの状態を保つ。
				アゼガヤ等については、落水散布又はごく浅く湛水して散布する。クサナメに効果が高い。落水状態で散布する際は、早め(3日以内)に入水する。
ノビエ・ 一年生広葉雑草	ロイヤント乳剤	200ml (希釈水量 25～100ℓ)	移植後20日～ノビエ5葉期 ただし、収穫45日前まで	アゼガヤ等については、落水散布又はごく浅く湛水して散布する。クサナメに効果が高い。落水状態で散布する際は、早め(3日以内)に入水する。

注) ・高温条件では葉の白斑や葉枯れなどの薬害を生じることがあるので、夕方に散布するなど高温条件を避ける。
・液剤の動噴での散布は薬害を生じやすいので、肩掛け散布機などでスポット処理をすることが望ましい。

基本防除体系

※箱施薬剤を施用する際は、除草剤と間違わないように袋の確認をしましょう。

○箱施薬剤

農薬名	施用時期	施用量	対象病害虫	備考(特徴)
防人箱粒剤	播種時(覆土前)～移植当日		いもち病、ウンカ類 コブノメイガ	ウンカ類、チョウ目害虫に効果がある。
スクラム箱粒剤	播種時(覆土前)～移植当日	50g/箱	いもち病、ウンカ類、 紋枯病、コブノメイガ	いもち病、紋枯病に効果が高い。 ウンカ類、チョウ目害虫にも効果がある。
ブーンハーデス箱粒剤	播種時(覆土前)～移植当日		いもち病、ウンカ類、 紋枯病、コブノメイガ	いもち病、チョウ目害虫(コブノメイガ)に効果が高い。ウンカ類、紋枯病にも効果がある。

○粉剤

農薬名	施用時期	施用量	対象病害虫	備考
ノンブラス粉剤DL	出穂直前～出穂期	3～4kg	いもち病・稲こうじ病 内穎褐変病・穂枯れ	収穫7日前まで。稲こうじ病、内穎褐変病防除の場合は4kgで防除を行う。
ノンブラストレバリダ粉剤DL	出穂直前～穂揃い期	4kg	いもち病・紋枯病 カメムシ類、ウンカ類	収穫14日前まで
注) スタークル粉剤DL	適時(但し開花期を除く)	3kg	ウンカ類 カメムシ類	収穫7日前まで

○液剤

農薬名	施用時期	施用量	対象病害虫	備考
ノンブラスフロアブル	出穂直前～出穂期	1000倍	いもち病・稲こうじ病 内穎褐変病・穂枯れ	収穫7日前まで
モンセレンフロアブル	出穂直前～出穂期	1500倍	紋枯病	収穫21日前まで
注) スタークル顆粒水溶剤	適時(但し開花期を除く)	3000倍 2000倍	ウンカ類 カメムシ類	収穫7日前まで

注) 蜜蜂への危害防止のため、開花期を外して防除してください。
目安: ウンカ類は適時発生に応じて。
カメムシ類は穂揃い期7～10日後の穂が垂れ始めた頃。

○粒剤

(散布に当たっては、田水深を3cm以上にし、散布後少なくとも4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水しない。)				
農薬名	施用時期	施用量	対象病害虫	備考
コラトップ1キロ粒剤12	葉いもち:初発前10日～初発時 穂いもち:出穂前30～5日	1～1.5kg	いもち病	いもち病の多発環境下では、早めに散布する。 散布後少なくとも3～4日間は湛水状態を保つ。
コラトップジャンボP	葉いもち:初発前20日～初発時 穂いもち:出穂前30～5日	10～13バック(500～650g)	いもち病	
スタークル豆つぶ	出穂前～出穂期(適時) 収穫7日前まで	250g	ウンカ類 カメムシ類	湛水状態(3～5cm程度)で、田面に均一に散布する。
オリブライト250G	出穂10日前まで 但し、収穫45日前まで	250g	紋枯病等	やや深めの水深(水深5～6cm)で、止水にして処理する。
ゴウケツモンスター粒剤	出穂5日前まで 但し、収穫45日前まで	3kg	ウンカ類、いもち病 紋枯病・カメムシ類	重灌をさけ均一に散布する。 湛水の激しい水田では使用をさける。